

【吹田市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

(1) 児童・生徒が社会へ出て活躍する将来、AI などの科学技術は予想できないほどのスピードで進化していく。その時々で必要な技術を積極的に取り入れ、活用する方法を自ら考え選択し、より善く活用できる力が、児童・生徒に求められる。

(2) 児童・生徒が、未知の出来事に出会った時に、生きて働く知識・技能を用いて、周囲の人と協力しながら対話をとおして新しい解決策を導き出す力を育むため、学校教育においては、協働的な学びを深める必要がある。ICT 機器の活用は時間や距離の制限を超えた協働の場を創設する学びの場として、今後さらに活用が期待される。

(3) 多様な児童・生徒が誰一人取り残されることなく、自分らしく学び、自分らしく生きていくために、ICT 機器の活用により、個別最適な学びを実現するとともに、児童・生徒が自らの可能性を引き出し、学びを深めるツールとして文房具のように活用する姿を目指す。

2 GIGA 第1期の総括

(1) 小学校

【R5 全国学力・学習状況調査 学校質問紙・児童質問紙より】

・ほぼ毎日活用している ⇒ 教員 83.3% 児童 32.4%

・家庭で利用 ⇒ 教員 33.3% 児童 6.3%

教員が授業で活用している認識と、児童が活用している認識に大きな差がある。授業観察の中では活用の好事例も見られ、学校間の活用の差が大きいことも課題の一つ。

(2) 中学校

【R5 全国学力・学習状況調査 学校質問紙・生徒質問紙より】

・ほぼ毎日活用している ⇒ 教員 33.3% 生徒 12.7%

・家庭で利用 ⇒ 教員 5.6% 生徒 4.9%

小学校と比較して、授業での活用が進んでいない現状がある。標準装備しているアプリの種類が少ないことや、端末の立ち上げに時間がかかることなども活用が進まない一因と考えている。

3 1人1台端末の利活用方策

(1) 通信環境の整備

チャット機能や同時双方向の情報共有等が円滑にできる通信環境の整備

(2) アプリの精選

児童・生徒の可能性を引き出し、創造性を育むためのアプリを精選し、活用の幅と必要性を高める

(3)教職員研修の充実

ICT 活用法に留まらず、児童・生徒の対話や協働を大切にした主体的な学びを実現するための ICT 活用について授業改善の視点から教職員研修を充実させる。

(4)デジタル・シティズンシップ教育の推進

ICT の善き遣い手として、デジタル社会を生き抜く児童・生徒の育成に努める。